令和5年度 西成区区政会議 第2回教育部会 会議録

1 開催日時 令和5年7月4日（火）14時から15時まで

2 開催場所 西成区役所 4階 4-6・8会議室

3 出席者の氏名

【区政会議委員】

甲斐田 安三（議長）、岡村 博之（副議長）、伊藤 悠子（委員）
上田 壽美江（委員）、榊原 久美江（委員）、谷崎 信子（委員）、
西田 吉志（委員）、松本 八重子（委員）、真鍋 洋子（委員）

【市会議員】

山口 悟朗（議員）

【西成区役所】

臣永 正廣（区長）、柏木 勇人（副区長）、森 浩一（保健福祉担当部長）、
三代 満（総務課長）、柏木 眞里子（総合企画課長）、田中 登美子（市民協働課長）、
得能 邦彦（窓口サービス課長）、宇野 新之祐（子育て支援担当課長）、
西川 志保（総務課区政推進担当課長代理）、
森田 崇（保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

- (1) 西成区の教育環境について
- (2) 令和5年度西成区運営方針の取組みについて

5 議事内容

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】

それでは、ただいまから令和5年度西成区区政会議第2回教育部会を開催させていただきます。

私は、本日司会を担当させていただきます子育て・教育支援担当課長代理の森田と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開催に先立ちまして、確認事項をご説明申し上げます。

まず1点目でございます。部会定数の確認でございます。本会議の委員定数につきましては12名とさせていただいております。現在8名の方にご出席いただいております。

開催要件を定めました区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第5項に規定しております定数の2分の1以上の委員の方にご出席いただいておりますことを確認しまして、ご報告させていただきます。

続きまして会議の公開についてでございます。

本会議につきましては、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第6項に基づき、原則公開となっておりますのでご了承賜りたいと思います。本会議の議事録につきましては、お名前を含めまして区のホームページに公開させていただくこととなっておりますので、ご発言いただく際は、なるべくゆっくりはっきりマイクを使ってお話しいただきますようご協力をお願いしたいと思います。

続きまして、報道と傍聴の関係ですけれども、本日、傍聴の方が1名、報道機関は来られていませんので、併せてご報告申し上げます。

続きまして、資料の確認をさせていただきたいと思います。配布している資料をご覧ください。

まずお手元に、「第2回教育部会」と書かれているレジュメが1枚ございます。ページ数も打っておりまして、それが1ページ目となっております。

続きましてページ数が3ページ目になりまして、こちらに委員の方の名簿が入っています。

1枚めくっていただいて、5ページ目の横長の資料ですけれども、「西成区の教育環境について」と書かれている資料がございます。こちら5ページから続きまして16ページで終わりまして、17ページから意見交換についてと書かれている部分が20ページまでになりまして、今度21ページに資料2と書いておりまして、「令和5年度西成区運営方針の取組みについて」と書かれている横長の資料があります。こちらが2枚ありまして、全部でページ数が、24ページまでとなっております。

続きまして、「意見票」が1枚、全体会用と書かれているアンケートが1枚、部会用と右肩にありますアンケートが1枚、最後に区政会議委員評価シートと書かれている紙が1枚ございます。

もし抜けている方がいらっしゃいましたら、挙手いただけたらと思いますけれども、よろしいでしょうか。

確認事項は以上となります。

それでは開会に先立ちまして、臣永区長からご挨拶させていただきます。

【臣永区長】 皆さん、改めましてこんにちは。

令和5年度の西成区区政会議第2回教育部会の開催に当たりまして、ご挨拶を申し上げます。

例年のない猛暑の中、委員の皆様及び西成区選出の市議員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。

この会議は、ご承知のとおり区民の皆様との協働による区政運営の実現に向けて設置した区政会議の部会として、教育というテーマに絞り、より効率的で効果的な議論を行うことを目的として設置したものでございます。

本日の第2回教育部会では、教育環境にテーマを絞って議論をしていただきたいと思います。

ます。区役所からは具体例として、読書活動やキャリア教育、不登校について西成区の取り組みの説明をさせていただき、委員の皆様にご意見を賜りたいと思います。

限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 ありがとうございます。

それでは続きまして、委員の方のご紹介をさせていただきたいと思います。

まずは、区政会議の委員の皆様から、本部会に参加いただいております区政会議の委員の皆様でございます。

3 ページ目の名簿のほうを参考にご覧いただけたらと思います。五十音順でご紹介をさせていただきます。

まず、1 番目の有馬委員につきましては、本日、所用により欠席ということで承っております。

続きまして伊藤委員でございます。

【伊藤委員】 お願いします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして上田委員でございます。

【上田委員】 よろしくお願いします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして岡村委員でございます。

【岡村委員】 岡村です。よろしくお願いします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして甲斐田委員でございます。

【甲斐田委員】 甲斐田です。よろしくお願いします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして河寫委員も、本日、ご欠席と伺っております。

続きまして榊原委員でございます。

【榊原委員】 榊原です。よろしくお願いいいたします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして谷崎委員でございます。

【谷崎委員】 谷崎です。よろしくお願いします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして西田委員でございます。

【西田委員】 西田といたします。よろしくお願いします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして松本委員でございます。

【松本委員】 松本です。よろしくお願いいいたします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 続きまして真鍋委員でございます。

【真鍋委員】 真鍋です。よろしくお願いいいたします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 山本委員につきましても、本日、所用でご欠席と伺っております。

続きまして、お越しいただいております市会議員の先生でございます。山口市会議員でございます。

【山口市会議員】 山口です。よろしくお願いいいたします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 あと、区役所職員も出席させていただいていますが、職員につきましては、下に職員名簿をつけさせていただいておりますのでご確認いただければと思います。

参加者の紹介は以上となります。

それでは、以降の議事進行につきましては、甲斐田議長にお任せしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【甲斐田議長】 こんにちは。甲斐田でございます。よろしくお願いいたします。

早速、進めさせていただきます。手元の次第に沿って進めてまいりたいと思います。

1つ目の案件、西成区の教育環境について、区役所から説明をお願いいたします。

【宇野子育て支援担当課長】 皆さん、こんにちは。子育て支援担当課長の宇野でございます。

昨年度の教育部会の中で、アンケートによって議題を決定いたしまして、子育て環境についてご議論いただきました。今年度は、昨年度のアンケートで、子育て環境に次いで票数が多かった教育環境について、区の取組状況などをお示しした上で、その改善に向けて皆様からご意見をお聞きしてまいりたいと考えております。

それでは、資料に沿って説明してまいりたいと思いますのでお願いいたします。座って説明させていただきます。

それでは、横向きの資料でございますが6ページをご覧くださいと思います。

今回、教育環境についての議論テーマの具体例を3点挙げておりまして、1つが読書活動でございます。続きましてキャリア教育について、そして不登校についてでございます。

こちらに議論テーマを簡単に書かせていただいております。読書活動について、生きる力を身につけていくためには読書が有効なものでございますが、現在、若者を中心に読書離れが進んでいるということも言われております。西成区におきましては、こどもの読書活動推進支援事業を実施しておりますが、この設定している目標冊数を達成している児童生徒が、全児童生徒数の約10%となっている状況でございます。

キャリア教育につきましては、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められており、キャリア教育の重要性が増しているという状況でございます。西成区においても地元とのつながりを生かして、キャリア教育に取り組んでいる状況でございます。

不登校につきましては、全国的に不登校の児童生徒の数が増えているのと同様に、大阪市、西成区でも増加しております。特にコロナの影響を受けて不登校者数が増加しており、こういう状況を踏まえてのご説明をさせていただきたいと思います。

では、資料8ページをご覧くださいと思います。

読書活動についてでございます。8ページにも書いてありますように、読書というのは子どもたちが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かすことができません。ただ昨今、テレビやスマホ、

インターネット等の様々なメディアの発達等から読書離れが指摘されている状況でございます。西成区では、この読書を行うきっかけづくりのための取組みを行っております。

それが9ページでございます、西成区こどもの読書活動推進支援事業でございます。

事業の内容といたしまして、先ほどから申し上げておりますように、読書のきっかけづくりということで、読了冊数の目標を設定いたしまして、その目標を達成した児童生徒に賞状を贈呈しております。

基本的に、年間目標は、小学校1・2年生が100冊、3・4年生が70冊、5・6年生が50冊、中学生が50冊と。学年が進むにつれ本も難しくなってきますので、冊数は少なくなっております。

対象となる図書につきましては、学校図書館、西成図書館、自動車文庫の本でございます。

読了後に、当区から配布している、本日お配りしております読書カード、こういったところに本のタイトル等を記入していただいて読んだ本を記録していただきます。

年間目標を達成した児童生徒及び年間読了冊数とは別に、学校長から読書冊数にかかわらず、取組内容の評価が高かった児童生徒に対しては賞状を贈呈しております。

この目標数達成の児童の中から、最もたくさん読んだ最多読書賞の児童生徒には、表彰状、記念品の額縁を贈呈しております。

先ほど言いました小学校1・2年、3・4年、5・6年と中学生ということで、各区分で1名ずつ4名表彰しております。

さらに読書感想文のような形式でふりかえりシートで読書の質というところを見るような形にしておりまして、このふりかえりシートを提出した児童生徒にもクリアファイルの参加賞を贈呈しております。

あと学校が希望すれば、区長からの直接表彰も実施をしているところでございます。

続きまして10ページのキャリア教育でございます。

キャリア教育と申しますのは、ここに書いてありますように、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」ということでございます。キャリア発達というのは、文部科学省の中央教育審議会の答申の中で定義づけられておりまして、「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程のこと」でございます。

西成区では、働くことの大切さや面白さを感じてもらおうということで、こういったキャリア教育の取組を進めております。

11ページをご覧いただきたいと思っております。

キャリア教育推進支援事業でございますが、こちらは、大阪市と包括連携協定を締結しているスポーツチーム、例えばオリックス・バファローズとか、大阪エヴェッサとか、セレッソ大阪、こういったスポーツチームからゲストティーチャーを招き、交流や講義を通して、児童生徒が具体的な進路や将来の職業について考える機会を提供する事業でございます。

2年間で区内全中学校で実施するという形を取っておりまして、令和5年度は、天下茶屋

中学校、梅南中学校、鶴見橋中学校で実施する予定でございます。

続きまして12ページをご覧いただきたいと思います。

大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業事業でございます。こちらは、区内小中学校の児童生徒にプロの演奏を鑑賞してもらいまして、大阪フィルハーモニー交響楽団を身近に感じてもらうことで、子どもたちの心に深く芸術文化に触れた記憶を残し、地域への愛着や誇りを育み、魅力ある地域へ変革させる人材育成につなげるとともに、将来の目標を見いだしていくことができる人材育成を図ることを目的としております。

こちらのほうは2年間で区内小中学校、全校をまわる形をしておりまして今年度は8校で実施の予定ということでございます。

続きまして、にしなりしごと博物館でございます。こちらの事業は、大阪府中小企業家同友会西成住之江支部南東ブロックと協働実施で行っている事業でございます。

こちらは区民センターを会場といたしまして、毎年、中小企業家同友会に所属する10数社ぐらいの会社に来ていただきまして、それぞれがブースを作る形で、西成区や近隣の子どもたちに地元の企業の仕事内容を理解してもらうことで、働くことの大切さや面白さを感じてもらい、地元で誇りと愛着を持っていただくことを目的として実施している事業でございます。

この右側には、昨年度のチラシの表紙部分が書いてありますけれども、今年度は10月29日に区民センターでの開催を予定しております。

続きまして資料の14ページをご覧いただきたいと思います。

不登校についてでございます。不登校は文部科学省の定義を書かせていただいておりますが、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある」、その中で、「年間30日以上欠席した者」でございます。病気や経済的な理由というものは除いております。

不登校の支援の視点でございます。昨今、文科省の見解もございしますが、不登校の支援というのは、必ず学校に登校するという結果のみを目標とはしておりません。児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があるということと、また児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見詰め直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れ、もしくは進路選択上の不利益、こういった社会的自立へのリスクが存在することについて留意することと、文部科学省通知でも述べられているところでございます。

次に資料15ページをご覧いただきたいと思います。

西成区で不登校対策で実施している事業でございますが、西成区こども生活・まなびサポート事業がございます。

こちらには、今、2種類のサポーターを配置しているところでございますが、まず1つは、登校支援・見守りサポーターでございます。区内全小中学校に、家庭生活面で様々な課題を抱える児童生徒に対して、例えば、電話や家庭訪問による登校支援、それと学習姿勢の定着

に向けた支援等、個々に応じた寄り添い型の支援を行っておるところでございますが、まず、この登校支援・見守りサポーターというのは、区内の全小中学校16校に1名ずつ、計16名配置しております。不登校・遅刻の児童生徒の家庭訪問、電話の対応、もしくは適応指導教室とか、学校内では別室を設けているところもございますが、別室登校している児童生徒の見守り支援などを行っております。

次に14ページをご覧くださいと思います。

もう一つ学習姿勢向上に向けたという冒頭説明させていただきましたが、こちらは、令和5年度から区内の2小学校にモデル実施をしている事業でございます。学習姿勢向上サポーターを配置しております。

こちらはこういったものかと言いましたら、いわゆる小1プロブレムという、幼稚園・保育園の個人や友達、小集団、遊びを通じた総合的な指導から、小学校の学級・学年による集団指導、教科教育になかなか適応ができなくて席に着くことができない、座ってもなかなか話が聞けない、学習姿勢が身につけていない、いわゆる小1プロブレムの児童に対応した事業でございます。

このイラストにありますように、このような席に着いて話を聞けない子どもさんに寄り添う形で、本人を落ち着かせ、きまりを守るなど、学習姿勢を定着させるためのサポーターを配置しているところでございます。

こちらは、個別に寄り添う丁寧なサポートを行うことにより、学習姿勢を定着させ、学習習慣の定着、不登校の未然防止につなげてまいりたいということで実施している事業でございます。

続きまして、17ページをご覧くださいと思います。「意見交換について」とさせていただいております。各事業の状況等を踏まえて皆様方に意見交換をしていただきたい、私どもで考えた具体例を挙げさせていただいております。

まず1つは読書活動についてでございます。

これが、すぐ下の表にあります令和4年度こどもの読書活動推進支援事業の目標達成者数ということでございまして、各学年の目標の達成者数を表示させていただいております。冒頭、私のほうで申し上げましたように、目標読了冊数を達成している児童生徒、これが全児童生徒の約10%となっているところでございます。

さらに、特に中学生の目標達成者数が、これを見ていただきましたら分かるように中1で1人、中2で13人、中3で2人ということで、かなり少なくなっております。読書活動への関心が低いことがお分かりになるかと思っております。

その次に、読書の頻度についての調査というのが、令和4年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査で判明しているところでございますが、「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書しますか」の設問で、「全くしない」と答えた児童の割合が大阪市は32.5%、全国が26.3%。中学生の生徒数でしたら、大阪市は51.1%、全国は39.0%ということで、全国を大きく上回っている、悪い状況になっているところでございます。

本日、意見交換として私どもがお願いしたいと考えておりますのは、読書活動に積極的に取り組んでもらうためのアイデア、そういったところを皆さんから出していただければと思っております。

例えば、この年間目標の冊数が多過ぎるのではないかと、それと図書館等の書籍のみということであったので、電子書籍など対象の図書を拡大するのがいいのか、もしくは記念品や表彰の方法を変更する、読書カードの内容を工夫していく、こういったところで皆様のご意見を出していただければと思っております。

続きまして、キャリア教育についてでございます。

キャリア教育につきましては、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められているということで、こちらのほうは参考に、ご一読いただきたいと思います。キャリア教育で育まれる能力というのが、文部科学省の資料でございますので、そこを抜粋しているところでございます。

意見交換として、これもまたお願いしたいと思っておりますのが、今現在、先ほどもご紹介させていただきましたように、西成区で3つの取組を行っておりますが、ほかに例えばどういった取組が考えられるのか、どのような取組に子どもが興味を持つかについて、そういった意見をお聞かせいただければと思っております。

それは、例えば職場体験であったり、取材やフィールドワーク、もしくは外部講師を招いた講演、そういったところが具体例で考えられるかなと思っております。

続きまして、不登校でございます。

不登校につきましては、資料の20ページをご覧くださいと思いますが、不登校の要因というのが、この全国的な文部科学省による児童生徒等の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査結果での抜粋でございますが、不登校の要因が、「無気力・不安」というのが全体の約半分、「生活リズムの乱れ、遊び、非行」というのが11.7%、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、これが9.7%、「親子の関わり方」が8.0%、「学業の不振」が5.2%と、このように不登校の要因が様々でございます。

これも意見交換でお願いしたいと思っておりますのが、今現在、不登校のつながり先で言いましたら、教育支援センター、不登校の特例校、これは令和6年度開校予定でございますが、あとはフリースクール、各種相談窓口など、多様なつながり先が求められているところでございますが、現在、皆様方の地域の目線から、地域等においてつながっている不登校の、もしくは不登校傾向のある児童生徒、これらの児童生徒がどういった活動をしているのか、また様々なつながり先がある中で、どういう経緯でつながったか、こういったことについてお伺いをしていきたいと思っております。

すみません、ちょっと3つのジャンルを駆け足でご説明いたしましたが、こういったことの意見交換をお願いしたいと思います。

説明につきましては、以上でございます。

【甲斐田議長】 今、区役所から説明いただきました内容を踏まえて、意見交換をしたいと思います。

テーマとして、具体例が、読書活動、キャリア教育と不登校の大きな3点であります。特に順番は決めておりませんので、どの内容からでも結構ですのでご意見をいただきたいと思います。

伊藤委員、いかがでしょうか。

【伊藤委員】 伊藤です。失礼します。

読書活動についてなんですけど、小学校1・2年生の目標冊数が年間100冊というのを見て、うわってびっくりしたんですけど、3日に1冊読まないといけないということになっていて、例のところでも、冊数に基準が高いのではというふうなのを挙げてくださっているんですけど、読書カードを拝見しても、タイトル、読み始め、終わりってなって、レースみたいに、たくさんこれを集めていかないと追い立てられるような感覚に陥っているんですけど、黙々と達成した成果を認めるという形式になってしまうと、読書の面白さを子どもたちに感じてもらうという目的が本末転倒というか、冊数を上げるためにということが目的になってしまうと思いましたので、発表の場を、冊数が何冊読んだかというよりも、1冊でも2冊でも、心に響いたような読書の体験がありましたら、そこで何を感じて考えたかのほうが、そこのほうが重要ななと思いました。なので冊数というよりは、こんな本を読んで感じたこと、自分が考えたことというふうな、子どもたちが発表できるような場を設けると、個々の学校ごとに表彰というよりは、大人たちも子どもの意見を聞けるし、良いのではないかと思います。

【甲斐田議長】 ほかに、西田委員、いかがでしょうか。

【西田委員】 西田です。

同じく3つともまとめてになるかもしれないんですけども、読書活動については、小学生と中学生の内容に変化を加えるというのも1個かなと思いました。特に、この学校長からの推薦、中学校に1人もいないというのもちょっと気にはなっていますし、それこそ伊藤さんが言うように、中学生に関しては1冊しっかり読み込んだ中で、自分の中でどう感じたかというのを文章に一回してみるという形で発表ができる場を設けるのは、僕も確かにいいなというふうに思いました。

あと、キャリア教育についてなんですけども、これ多分、キャリア教育イコール職業観というわけではないのかなというのはちょっと思うので、そもそも西成区内の小中学校で、キャリア教育という視点で、どんな学校教育をやっているかというのは、一度、何かまとめていただけたらすごくうれしいなと。そういう全体が見えないから、各地域の小学校、どんなことやってるのが分からないんで、それを一回、区として整理をしてみたらどうかなというふうに思いました。

内容としても、社会の中で、日本の歴史って学ぶことがあるかと思うんですけども、自分たちの住んでる、生まれ育ってるこの西成区を学ぶというところに関しては、やっぱりち

よっとそれは各学校にばらつきもあるかなと思うし、西成区を学ぶというのが、キャリア教育にどうつながんねんということもありますけど、それをグループワークですとか、というふうな形でやると、ゆくゆくはそれが人権教育になったりとか、そういったところにつながるんじゃないのかなと思います。

ただ、1つの学校、小中学校で西成区全体の勉強を、さあ、どうするんだというときに、やっぱり材料的にもいろいろあるから、そこを区として、しっかりサポートするような形で学校と区、地域と並んで、キャリア教育というのをつくっていくというのは、一つすごく大事なことなんじゃないかなというふうに思いました。

小学校は大体そういう形で、中学校になるとちょっと職業観というのも出てくるのかなと思うんですけども、子どもたちが身近にあるもの、生活の中で身近にあるものを作る企業さんと、子どもたちをつないでいくのは結構大事かなと思ってまして、長橋のほうなんかで言うと、やっぱり食肉であったりとかそういうところを、直に子どもたちに触れてもらう、自分たちがいつも食べておいしいと思ってる、このお肉がどんな形でなってきた、それを自分たちが食べているんだなということもすごく大事な一つのテーマかなと思いました。

あと、不登校についての意見なんですけども、これは多分、ご質問を地域に投げられてる感じがあるので、一概にこれがどうかというわけではないんですけども、一応、長橋の地域なんかでは、長橋地域活動協議会という中で、小学校の子どもたちの居場所事業という活動をやってまして、それは夏休み中やとかは週3日やってますし、ふだんは毎月第1、第3土曜日はやってます。それは別に、不登校とかとは関係ないんですけども、今は学校に行ける、でも中学校になったら不登校になる、これってやっぱり子どもたちの置かれている環境の中で、いつ、どこで、そういう環境になるか分からないから、地域として早い段階から子どもたちと地域とつながろうという、こういう目的で居場所事業的なことを地活協としてやっておるんですね。

そうやって地域とつながっておく、ただ、これやってて思うのは、やっぱり高学年になってくるとちょっとこれ減るんですね。中学校になったらもっと来なくなるんですね。塾行ったりとか、クラブがあったりとか、ちょっと行くのが恥ずかしかったりとか、そういうのがいろいろある中で、結構、中学校なんか、地域と子どもたちが離れてしまうなということもあるから、地域として、地域の中学校に毎週1回、図書室に行かせてもらって、子どもたち、言うたら保護者であったりとか、先生たちに言えないことを地域の人たちが聞き取る、中学校内居場所的な取組もやっています。

これは地域から見て、やっぱり中学校での進路選択って、人生の中においては、一番大事じゃないかということから、中学校での、しっかりそういった子どもたちの悩みを拾っていこうねということからスタートした取組みでやってるといったのがあります。

以上です。

【甲斐田議長】 ありがとうございます。

榊原委員、いかがでしょうか。

【榊原委員】 ちょっと頭の中でまとまってないんですけど、不登校の件なんですけども、やっぱり、うちの周りの近所の子でも地元の小学校に行っていない子が多いんで、なかなかそういう子どもたちが北向いて行ったり、南向いて行ったり、どこにどういうふうな学校行ってるのか分からないので、もちろんお母さん、お父さんたちとも関わりができなくて、ちょっとご挨拶もできないとかいう形のことが多いんで、ちょっと私ら自身は、もうちょっと古びたPTA関係の者で寂しいなということをお話もしてるんですけど。だから、どの子が学校にちゃんと喜んで行ってるのか、どの子がちょっと学校に行くのが寂しい、行けないのかというのが把握できてない状況が、ちょっと私らとしてみたら物寂しいみたいな、何かちょっと足りないような気持ちがあって、今のところ何とも言えない状況です。

ありがとうございます。

【甲斐田議長】 どうもありがとうございました。

岡村委員、どうでしょうか。

【岡村委員】 読書活動についてなんですけれども、先ほど西田さんがおっしゃってたように、中学校で推薦が誰もいないというのがもったいないというか、せっかくこういう表彰制度があるんですから、ぜひとも、これは表彰対象の子がいる学校の校長先生が、それに対して必要としていないということなのかなと思うんですけど、そこんとちょっと聞きたいところなんですけども。せっかくこういうことがありますので、本当に学校を巻き込んで表彰、せっかく西成区で1人しかおられないのですから、良かったなという感じで表彰してもらいたいと思うんですよ。

どんどん表彰してもらったら、それがやっぱりその子の次、ほんなら次も取るぞみたいな感じになるし、周りの子も、あの子、何か区長から表彰してはったらしいでって感じで。そういうのが浸透ができてるのかどうかという、もっともっと周知して、みんなで楽しく、争うと言ったら言い方が悪いけども、ぜひ学校長も巻き込んで、ぜひぜひ推薦してくれと、1人でも多くの方、対象がおるんだったら表彰するべきだというふうに思いました。

それから不登校なんですけれども、不登校の子どもって、結局、朝になると、もうむずかかって親とけんかして、親が行け行け、子どもが嫌や嫌や言うて、結局、親も仕事行かなあかんから、その時間になるともう親が仕方なしに、学校に今日は欠席させますって言って親が出ていく。ほんで子どもは開放されて、機嫌よくゲームしてるというような感じだと思うんです。全部が全部ではありません。ただ、夕方以降になると家族団らんみたいな感じになって、ほんでまた朝になるとバトルが始まるということがよく聞くんなんですけれども。

子どもは子どもで本当に苦しんでるんです。そやけど、子どもは苦しんでるんだけど、親も苦しんでます。なので、実は不登校の親の会というのがあります。西成区民センターでも月に何回かやってはって、僕も参加させてもらったんですけども、その親御さんはものすごく明るいんです。やっぱり仲間がおるから、ほんで、そういう嫌な経験というのを共有できて、そこに答えはないんですけども、ヒントがたくさんあります。

なので、できましたら、子どもだけではなくて、親御さんもケアしていただいて、親御さ

んが明るくなったら子どもも明るくなります。それは不登校に、学校行くにつながらないかもしれないけれども、親御さんの会で何かのヒントがあって、学校行かなくてもいいじゃん、でもこういう方法もあるよというヒントがたくさんでてきて、親もそれで、ちょっと安心して明るくなって。子どもにも、もうええやん、学校行きたないんだったら行かんでええよ、でも、こういう方法があるよというふうな方向に持っていくことができると思うんです。

多分そういうことをご存じやと思うんですけども、親の会を周知していただいて、できるだけ親のほうから子どもを楽にさせてあげる、そういう施策というのができればいいのかなというふうに思っています。

以上です。

【甲斐田議長】 どうもありがとうございました。

ほかにご意見ございませんでしょうか。

よろしいですか。

【伊藤委員】 伊藤です。先ほどの図書のこと追加がありました。お伝えそびれていました。

対策として、電子書籍などの対象図書を拡大するというふうな案を載せてくださっています。委員の皆様方、どう思われますか。

全く読まないという子が半分、51.1%、大阪市全体で。という中で、ペーパーの書籍は読まずに電子図書を推奨したら、この子たち、どうなるのかとかというのを想像すると、これはあまりよくない方向に行くんじゃないのかなって思います。

学校でするんじゃないなくて、家に帰って電子図書を見るということは、遅い時間に電子を見るということで、IT関連の開発者たちがこぞって、中学生になるまでは、うちの子どもにはコンピューターを与えないというぐらいに、目に、寝る前に光が入るということは成長ホルモンの分泌も抑えるし、生活パターンが変わり、非常によくないということがあるので、電子書籍、その他、こういった子どもたちの環境というもの、全体で考えていって、読書って言ったらやっぱりいろんな知らない世界に関心を広げるということなので媒体は考慮が必要だなと思います。電子図書は賛成しません。

もう一点なんですけれど、不登校の関連で、個々の子どもたちの要因は様々ですけど、個別の子どもというだけでなく、やっぱり世帯全体、その家族の中で何が起きているのかというのは切り離せないと思うんですね。

先ほど、岡村副議長のほうから親の会のご提議がありましたけれど、やはり不登校の子どもたちの実情を知ってる方って言えば、各校の非常勤ではあってもスクールソーシャルワーカーの方が配置されてると思うんです。まだ、ちょっと安定してないから全校に行ってるのか分からないので、その辺を伺いたいんですけど、このスクールソーシャルワーカーの方々が把握している世帯と不登校との関連というもので、恐らくご意見あるんじゃないかと思いますので、大阪市、この西成区の中でどういった課題を見いだされているのか、知ってる方々から意見を聞いていって、世帯全体、子育て環境全体で不登校を考えていくのがいい

いのではないかなと思っています。

【甲斐田議長】 どうもありがとうございました。

ほかにご意見ございませんか。

ないようですので、それでは2つ目の案件に移りたいと思います。

令和5年度西成区運営方針の取組について、区役所からよろしくをお願いします。

【宇野子育て支援担当課長】 様々なご意見をどうもありがとうございました。

ちょっとこちらのほうも、参考にさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

そうしましたら、資料2の西成区運営方針の取組についてでございます。

資料のほうは21ページをご覧いただきたいと思います。

こちらのほうが、運営方針の取組ということで、内容につきましては次の22ページ以降でございます。

こちらが西成区の運営方針の内容でございます。

西成区の目標につきましては、「すべてはこどもたちのために」をキャッチフレーズに、人と人とのつながりを大切に、皆さんが笑顔で暮らしやすいまちを目指すということでございます。

西成区の使命でございますが、区民の多様な意見やニーズを把握し、地域住民等との連携・協働しながら地域の実情や特性に即した施策や支援を行ってまいります。

運営方針の西成区運営の基本的な考え方でございます。若い人や子育て世帯を呼び込み、活力あるまちをつくるために、3本柱を考えておりまして、1つが子どもの夢が広がるまち、2つ目が人と人がつながりにぎわうまち、3つ目がみんなが安心して暮らせるまちの施策を進めてまいります。

次に23ページをご覧いただきたいと思います。

経営課題における具体的な取組みということでございまして、まず、子どもの夢が広がるまちということで事業内容といたしましては、この教育部会で扱うという部分がこの1番に該当してくるかと思っております。

具体的取組には、プレーパーク事業、それと障がいがある子どもや親の孤立防止支援事業、西成区基礎学力アップ事業（西成まなび塾）、基礎学力向上支援事業（西成ジャガピースクール）でございます。それと、西成区こども生活・まなびサポート事業でございます。

今回、西成区こども生活・まなびサポート事業を網かけさせていただいておりますが、資料24ページをご覧いただきたいと思います。

先ほどの不登校対策でもご説明させていただきましたが、今年度、新たに学習姿勢向上サポーター、こういったものを配置しておりますので、ちょっとこちらのほうを重点的に説明してまいりたいと考えております。

今年度の取組内容につきましてはです。先ほどの繰り返しになってはいますが、区内全小・中学校、家庭生活面等で様々な課題を抱える児童生徒に対して、電話や家庭訪問による登校支

援、これはモデル実施でございますが、学習姿勢定着に向けた支援等、個々に応じた寄り添い型の支援を行い、学びの場への定着を図ることを目的としてサポーターを配置しております。

1つ目が、これはもう皆さんご存じだと思いますけども、全小・中学校16校に配置しております登校支援・見守りサポーターでございます。

続きまして2点目が学習姿勢向上サポーター、こちらがモデル実施の区内2小学校に1名ずつ配置をしております。さらにそれを補佐する学生を中心としたボランティアを配置しております。

これは先ほどのイラストつきのペーパーでもご説明させていただきましたように、小1プロブレムという幼稚園・保育所から小学校に上がってきて、なかなか机に座ることができない、学習意欲がなく学習に向かうことが難しい児童に対して、個別にサポートを行うサポーターを配置いたします。そして学習姿勢定着までの支援を行うことにより学力の向上、特に学力に課題のある児童に対してですけど、こういうふうにより将来の不登校の未然防止も図っていくというものでございます。

現在、この4月から区内2小学校にモデル実施をしているところでございますが、簡単にモデル校の実施状況のご説明をさせていただきたいと思っております。このサポーターが小1プロブレムに対応するということですが、具体的にどういう内容を行うか、どういう活動をしているかということでございますが、まず1つが登校から授業開始までの支援でございます。

小学校1年生でしたら、なかなかランドセルから必要なものを机に出してロッカーにしまう、こういったこともなかなかできない子どもがおりますので、そういったところのサポートを行っております。あとは朝の登校時に、送迎してきたお母さんと離れるのが嫌で泣いていると、1時間ずっと泣いている子どもさんもいらっしゃいますが、こういう児童のクーリングの対応を行っております。

続きまして休憩時間から授業開始までの間で、休憩時間で校庭で遊んでいてもなかなか帰ってこないという児童もおりますので、児童と一緒に遊んで児童との関係づくりを行い、チャイムの後に教室に戻って席に座るまでのサポートを行っております。

そして授業中につきましては、授業でじっとできない子、寝そべっていたりとか、机にいても寝ている子、何をしたいのか分からない子、周りの児童より行動が遅れている子への声かけなど個別の対応を実施しているところでございます。特に席に着くことができなくて立ち歩く子どもがいますと、小学校1年生とかでしたら、その目立つ子に周囲が引きずられて一緒にはしゃいでしまうということもありますので、そういう周囲が引きずられることも防ぐための対応を行っているところでございます。

学校現場から聞いておりますサポーターの実績でございます。学習規律がまず定着できてきたということで、やはり学級でそういう1名ないし数名ぐらいの子どもさんがそういう状況にある中で、個別でサポートを行っておりますので、授業開始時点で授業を聞く体制

ができるようになってきたと。さらにはルールに沿った行動ができる、きまりを守ることができるようになったと。モデル校の感想で聞きましたら、年度当初に座ってられない児童が多数いたんですけど、これが大分減ってきているということも聞いております。

さらにそういうことが減っていくことによりまして、落ち着いた学習環境が提供されるということで、授業中に担任が立ち歩いたりとか、授業に集中できてない子どもの個別の対応に手を取られることなく、全体の授業進行が円滑にできるようになったということも聞いております。

さらに休み時間も、帰ってこない子どもさんがいたら、これまでは担任の先生が個別対応に手を取られてたんですけども、こういったこともなくなり、次の授業への準備がやりやすくなったと、こういったことをモデル実施の学校から状況を聞いているところでございます。

西成区の運営方針の取組につきましても説明は以上でございます。

【甲斐田議長】今、区からの説明がありました。ご意見とか質問等はございませんでしょうか。いかがでしょうか。

区のほうから何かございますか。

【宇野子育て支援担当課長】特に、今、ご質問等はなかったんですけど、こちらのこども生活・まなびサポート事業の先ほどの学習姿勢向上につきましては、きっちり成果を上げていった形で、私どもとしては、このモデル実施をできるだけ拡充していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【甲斐田議長】分かりました。では、本日お越しの市議員の方から一言賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【山口市議員】本日は多くの意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

私から、1点だけ少しお話をさせていただきたいというふうに思います。

読書の活動についてなんですけれども、読書というのが、実際、今、全国的に見て、書店ゼロの自治体が去年の9月から比べて26%ということで、実際、環境自体も今減ってきているといったような状況でもあります。

小学生にアンケートを取る中で、なぜ読書が嫌いになったかというような項目の中で、一番多かったのが、読書の必要性を教えてもらえなかったというようなところが1点と、もう1点が、興味がない本を読まされたといったような、本当に強制的な読書だというような状況がございました。1か月に本を読まないと言った人たちが、今割合として51.5%で、読書する割合と比べると超えてしまった、そういった状況でもございます。

本との出会いと、あるいは学ぶ場所を今後やっぱり提供していくことというのが非常に大事なんじゃないかな、それがキャリア教育につながったりとか、あるいは不登校にもつながっていくのかな、皆さんのお話を聞きながら改めて感じたところでございます。

学ぶ機会、図書館もそうですし、学校の図書館ももちろんそうなんですけれども、区の図書館ももちろんそうですけれども、様々な場に関して、大人が手を加えること、大人が考え

ることがたくさんあるなというふうに改めて思いました。

引き続き、今日のテーマは非常に大事だと思ってますので、また皆さんと協力しながら進めていきたいというふうに思います。

本日は大変にありがとうございました。

【甲斐田議長】 どうもありがとうございました。

それでは、長時間にわたりご協力ありがとうございました。

本日の区政会議の議事は以上でございます。いろいろ貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。

ではマイクをお返しします。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 甲斐田議長、ありがとうございました。委員の皆様もご協力いただきましてありがとうございました。

それでは、最後に連絡事項を申し上げます。

本日の議事録についてなんですけれども、おおむね本日から30日後をめどに、区役所のホームページに掲載し、公開したいと存じますのでよろしくお願いいたします。

あと本日お配りしている、委員の皆様だけなんですけれども、資料の最後に、意見票と書かれていますものをつけさせていただいてと思います。

こちらは、本日、会議の中で発言できなかったこと、言い忘れたこと含めまして、ご意見ご質問等がございましたら、こちらにご記入いただきまして、7月11日火曜日までに子育て支援担当まで送っていただけたらと思います。

続きまして、アンケートを2種類と、あと評価シート1枚をつけさせていただいてるんですけども、アンケートにつきましては2種類ありまして、1つ目が西成区の区政会議の全体会ということで、本日やっていたのが教育部会になるんですけども、全体会に関するアンケートと、もう一枚が西成区区政会議各部会ということで、皆さん、属されている教育部会についてご意見を賜るといような形になります。

こちら2枚のアンケートにつきましても、ご確認をいただきまして、こちらはお手数ですけど、8月4日までに総務課までお送りいただければと思います。

最後に区政会議の委員の評価シートということで、こちら令和4年度になりますので、昨年度の1年間についてなんですけれども、こちら評価をしていただきまして、またご記入のほうを併せていただけたらと思います。

こちら8月4日までにご提出をお願いできたらと思います。

アンケートと評価シートにつきましては以上になりまして、あと、今回、第1回、第2回ということで、短い期間内に何回も足を運んでいただいご意見いただいたところなんですけれども、続きまして9月に区政会議の全体会ということで、本会議をまた開催させていただく予定となっております。こちらのご案内につきましては、また改めて委員の皆様にお送りさせていただきますので、またご出席をお願いしたいと思います。

【岡村委員】 その全体会に関するアンケートなんですけども、結局、9月の全体会ではないんですね。これは全員。

【森田保健福祉課子育て・教育支援担当課長代理】 そうですね。令和4年度のアンケートということで両方書いていただけたらと思いますので、お願いしたいと思います。

それでは以上をもちまして、区政会議教育部会を終了させていただきます。

皆様、長時間にわたりご協力いただきまして、どうもありがとうございました。